



2013年度 第2四半期 決算概要

I 2013年度 上期連結業績概要

II 部門別情報

III 2013年度 連結業績予想

補足資料 ~主要商品販売高等~

シャープ株式会社

2013年10月31日

【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

SHARP

I 2013年度 上期 連結業績概要

1

- ・本日は、ご多忙な中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。
- ・それでは、お手許にお配りしておりますパワーポイントの資料に沿ってご説明いたします。

2013年度上期連結業績概要

・売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに、前年度上期から大幅な改善となり、各々前回公表値を上回った

(単位:十億円)

	2012年度	2013年度					
	上期実績	期初公表 (5/14)	前回公表 (9/18)	上期実績	前同比	期初公表 増減額	前回公表 増減額
売上高	1,104.1	1,270.0	1,310.0	1,342.0	+21.5%	+72.0	+32.0
営業利益 (利益率)	-168.8 (-15.3%)	15.0 (1.2%)	30.0 (2.3%)	33.8 (2.5%)	-	+18.8	+3.8
経常利益 (利益率)	-197.2 (-17.9%)	-5.0 (-0.4%)	2.0 (0.2%)	3.2 (0.2%)	-	+8.2	+1.2
四半期純利益 (利益率)	-387.5 (-35.1%)	-20.0 (-1.6%)	-10.0 (-0.8%)	-4.3 (-0.3%)	-	+15.6	+5.6

SHARP

2

- ・まず、当上期の連結業績(2013年4月～9月)の概要ですが、
売上高は、前年同期比21.5%増の1兆3,420億円、
営業利益が338億円、
経常利益が32億円、
四半期純利益はマイナス43億円となり、
9月18日の修正発表値を各々上回り、前年度上期からの大幅な改善を図ることができました。

2013年度 上期実績

- ・売上高営業利益率は、第1四半期実績の0.5%から第2四半期は4.2%へ改善
- ・第2四半期は、営業利益、経常利益、四半期純利益の全ての項目において黒字を達成

(単位:十億円)

	2013年度					
	1Q実績	前同比	2Q実績	前同比	上期実績	前同比
売上高	607.9	+32.6%	734.1	+13.7%	1,342.0	+21.5%
営業利益 (利益率)	3.0 (0.5%)	-	30.8 (4.2%)	-	33.8 (2.5%)	-
経常利益 (利益率)	-12.7 (-2.1%)	-	16.0 (2.2%)	-	3.2 (0.2%)	-
四半期純利益 (利益率)	-17.9 (-3.0%)	-	13.6 (1.9%)	-	-4.3 (-0.3%)	-

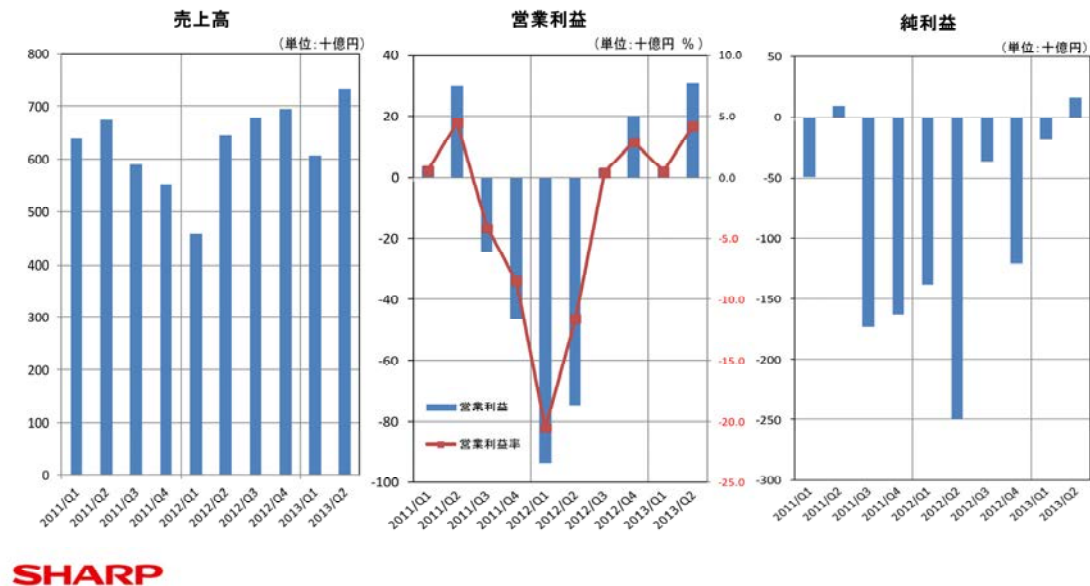
SHARP

3

- ・また次のスライドの通り、第2四半期(2013年7~9月)3ヶ月ベースの実績は、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに黒字を確保することができ、売上高営業利益率については、第1四半期の0.5%から4.2%に改善しました。

四半期別 売上高/営業利益/純利益 推移

- ・四半期ベースの売上高は、6,000～7,000億円レベルに改善
- ・営業利益、純利益は、2012年度第1四半期、第2四半期を底に回復基調で推移
- ・営業利益は、4四半期連続で黒字を確保



4

- ・次のスライドは、売上高、営業利益、純利益の四半期別の推移を表したものです。
- ・ご覧の通り、売上高は四半期ベースで6,000～7,000億円レベルに回復しました。
- ・また営業利益は、4四半期連続で黒字を確保し、純利益についても黒字転換するなど、2012年度第1、第2四半期をボトムに回復基調で推移しています。

2013年度上期 部門別売上高

・2013年度上期は、デジタル情報家電を除く全部門が、前年同期に対し伸長
 ・特に太陽電池、ビジネスソリューション、液晶、電子デバイスが大幅増収達成

(単位:十億円)

	2012年度	2013年度					
	上期実績	第1四半期	第2四半期	QoQ増減額	上期実績	前同比	前同増減額
デジタル情報家電	338.5	158.9	175.6	+16.6	334.6	-1.2%	▲3.9
健康・環境	154.9	82.3	77.5	▲4.7	159.8	+3.2%	+4.8
太陽電池	93.0	84.3	83.9	▲0.4	168.2	+80.8%	+75.1
ビジネスソリューション	138.9	77.6	80.7	+3.1	158.4	+14.0%	+19.4
プロダクトビジネス	725.6	403.3	417.9	+14.5	821.2	+13.2%	+95.5
液晶	368.0	193.8	284.7	+90.9	478.5	+30.0%	+110.5
電子デバイス	126.4	61.2	86.5	+25.3	147.8	+17.0%	+21.4
デバイスビジネス	494.4	255.0	371.3	+116.2	626.4	+26.7%	+131.9
小計	1,220.1	658.3	789.2	+130.8	1,447.6	+18.6%	+227.5
調整額	-115.9	-50.4	-55.1	▲4.6	-105.6	-	+10.3
合計	1,104.1	607.9	734.1	+126.1	1,342.0	+21.5%	+237.8

SHARP

※セグメント(プロダクトビジネス・デバイスビジネス)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

5

・それでは、売上高の部門別の状況について説明します。

当上期は、「デジタル情報家電」を除く全ての部門が前年同期に対し伸長するとともに、特に「太陽電池」、「ビジネスソリューション」、「液晶」、「電子デバイス」が大幅な増収を達成し、全体では2,378億円の増収となりました。

2013年度上期 部門別営業利益

・2013年度上期は、全ての部門で営業黒字を達成

(単位:十億円)

	2012年度	2013年度				
	上期実績	第1四半期	第2四半期	QoQ増減額	上期実績	前同増減額
デジタル情報家電	-21.1 (-6.3%)	-1.3 (-0.9%)	2.2 (1.3%)	+3.5	0.8 (0.3%)	+22.0
健康・環境	17.3 (11.2%)	6.4 (7.8%)	3.2 (4.2%)	▲3.1	9.6 (6.0%)	▲7.6
太陽電池	-12.3 (-13.2%)	6.8 (8.1%)	3.0 (3.7%)	▲3.7	9.8 (5.9%)	+22.2
ビジネスソリューション	6.9 (5.0%)	7.5 (9.8%)	8.3 (10.3%)	+0.7	15.9 (10.1%)	+8.9
プロダクトビジネス	-9.1 (-1.3%)	19.4 (4.8%)	16.8 (4.0%)	▲2.6	36.3 (4.4%)	+45.5
液晶	-115.5 (-31.4%)	-9.5 (-4.9%)	18.1 (6.4%)	+27.6	8.6 (1.8%)	+124.2
電子デバイス	-23.7 (-18.8%)	0.1 (0.2%)	5.1 (5.9%)	+5.0	5.2 (3.5%)	+29.0
デバイスビジネス	-139.3 (-28.2%)	-9.3 (-3.7%)	23.3 (6.3%)	+32.7	13.9 (2.2%)	+153.2
小計	-148.5 (-12.2%)	10.0 (1.5%)	40.1 (5.1%)	+30.0	50.2 (3.5%)	+198.7
調整額	-20.3	-7.0	-9.3	▲2.3	-16.4	+3.9
合計	-168.8 (-15.3%)	3.0 (0.5%)	30.8 (4.2%)	+27.7	33.8 (2.5%)	+202.7

SHARP

() 内数値は利益率

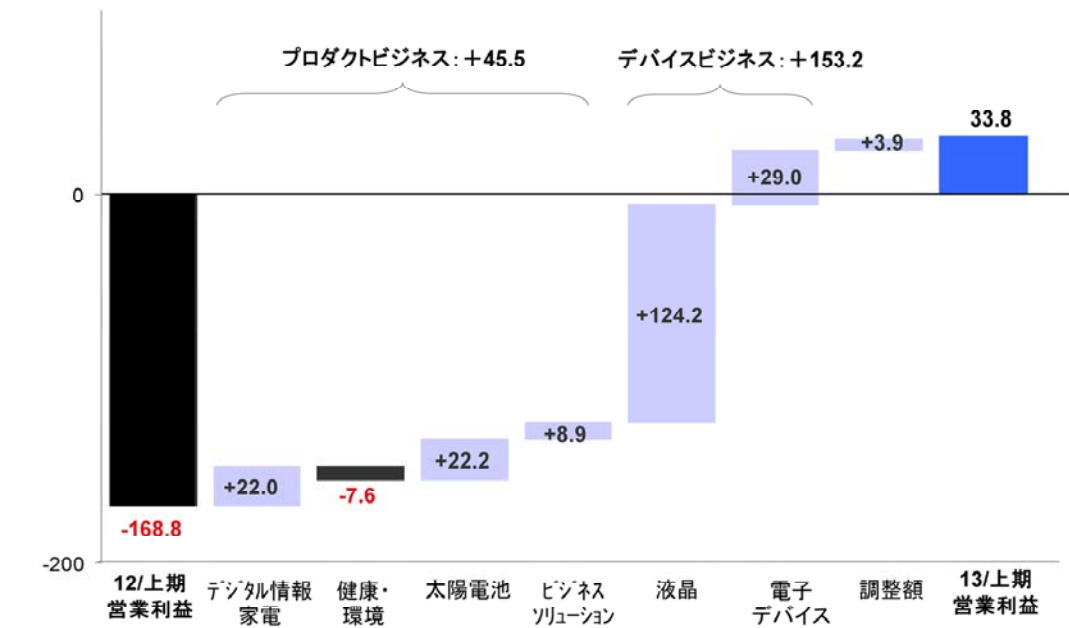
6

・営業利益の部門別の状況は、次のスライドの通りです。

当上期は、全ての部門で営業黒字を達成することができ、全体では前年度上期に対し2,027億円の改善となりました。

部門別 営業利益増減分析(前同対比)

(単位:十億円)



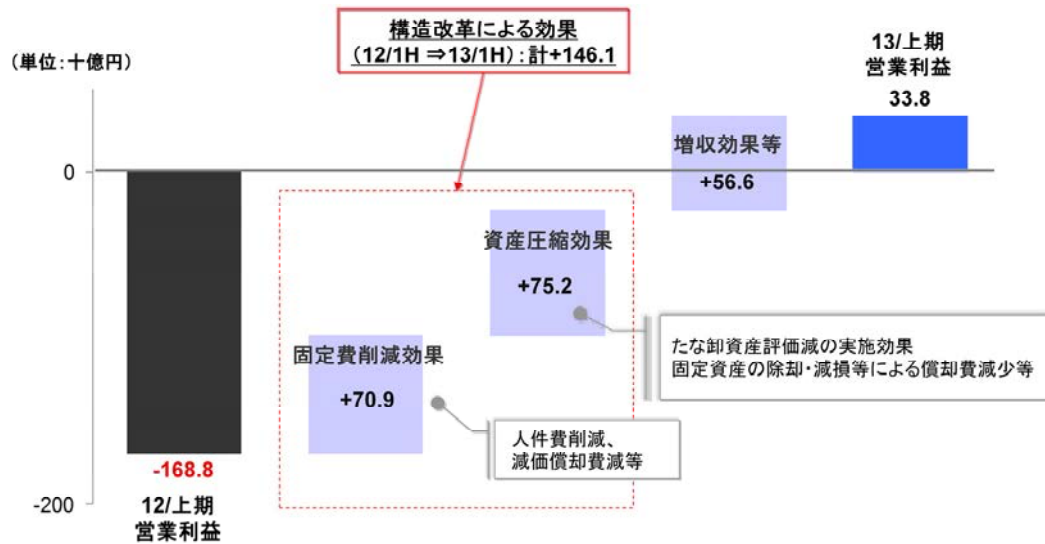
SHARP

7

- ・次のスライドは、前年度上期に対する営業利益の増減を、部門別にグラフに示したのですが、特に「液晶」の収益改善が大きく貢献しています。

要因別 営業利益増減分析(前同対比)

・固定費削減や資産圧縮効果が黒字転換に寄与



SHARP

8

- ・また、次のスライドは、営業利益の増減を「要因別」に分析したものです。人件費などの固定費削減効果と、たな卸資産や固定資産の圧縮等の構造改革効果が収益改善に大きく寄与しました。

営業外・特別損益・法人税等の概要

・構造改革関連の費用処理が概ね完了し、特別損益は大幅改善

(単位:十億円)

	2012年度	2013年度	
	上期実績	上期実績	差額
営業利益	-168.8	33.8	+202.7
営業外損益	-28.3	-30.5	-2.1
支払利息	-5.3	-8.9	-3.6
その他	-23.0	-21.5	+1.5
経常利益	-197.2	3.2	+200.5
特別損益	-125.5	1.5	+127.1
固定資産売却益	3.8	3.0	-0.8
投資有価証券売却益	0.3	1.6	+1.3
固定資産除売却損	-8.3	-1.1	+7.1
投資有価証券評価損	-2.8	-0.9	+1.9
事業構造改革費用	-98.6	0.0	+98.6
和解金	-15.8	0.0	+15.8
訴訟損失引当金繰入額	0.0	-1.0	-1.0
その他	-4.0	0.0	+4.0
法人税等調整額他	-64.7	-9.1	+55.5
四半期純利益	-387.5	-4.3	+383.2

SHARP

9

・次のスライドは、営業外・特別損益・法人税等の概要です。

当上期は、支払利息の増加等により営業外損益が悪化しましたが、構造改革関連等のイレギュラーな費用計上が無くなったことから、特別損益が大幅に改善しています。

連結 貸借対照表推移

・自己資本比率は、2013年3月末の6.0%に対し、9末は6.4%に改善

(単位:十億円)

	2012年度		2013年度		2012年度		2013年度	
	9末実績	3末実績	9末実績		9末実績	3末実績	9末実績	
現金	221.1	191.9	167.5	支払手形・買掛金	388.2	365.1	408.4	
受取手形・売掛金	410.5	424.2	457.3	短期借入金	511.2	674.9	730.4	
たな卸資産	325.7	310.7	317.5	1年内社債	205.9	235.3	130.3	
その他	301.6	294.9	340.5	CP	167.5	0	0	
流動資産計	1,259.0	1,221.8	1,282.9	その他	381.2	392.1	343.8	
有形固定資産	636.6	563.6	535.2	流動負債計	1,654.2	1,667.5	1,613.0	
無形固定資産	64.6	59.2	55.4	社債	190.0	160.0	60.0	
投資その他資産	259.0	242.4	241.6	長期借入金	99.4	73.0	248.2	
固定資産計	960.3	865.3	832.3	その他	48.8	52.3	47.7	
繰延資産	1.0	0.6	0.1	固定負債計	338.3	285.3	355.9	
資産合計	2,220.4	2,087.7	2,115.5	純資産	227.9	134.8	146.6	+
				負債純資産合計	2,220.4	2,087.7	2,115.5	

自己資本比率	9.9%	6.0%	6.4%
--------	------	------	------

10/末迄の確定分	
・公募増資	109.0
・第三者割当増資	17.4
(デンソー・マキタ・LIXIL)	
純資産増加額	126.5

SHARP

10

・次のスライドは、貸借対照表の推移です。

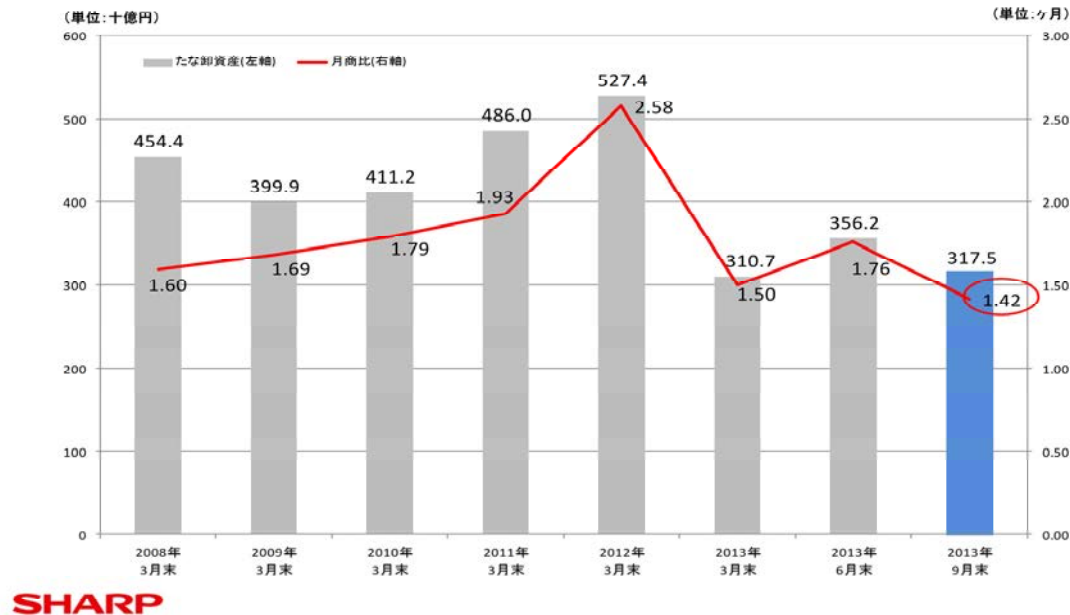
9月末の転換社債償還に伴い、流動負債において、「1年以内の社債」が減少する一方、金融機関による融資枠設定等により、短期借入金が増加しました。

また、クアルコムへの第2次第三者割当増資や、円安による為替換算調整勘定の増加等から、純資産残高が1,466億円となり、自己資本比率は、前年度末(2013年3月末)の6.0%から6.4%に改善しました。

・なお、この10月に実行しました公募増資、並びに(株)デンソー、(株)マキタ、(株)LIXILに対する第三者割当増資について、10月末迄の確定分1,265億円を加味した場合、自己資本比率は12%程度となります。

アセットライトの取り組み（たな卸資産の推移）

- ・2013年9月末のたな卸資産は、6月末比で386億円減少し、ほぼ2012年度末ベースまで削減
- ・売上の増加に伴い、月商比は、1.76ヶ月から1.42ヶ月へ減少



11

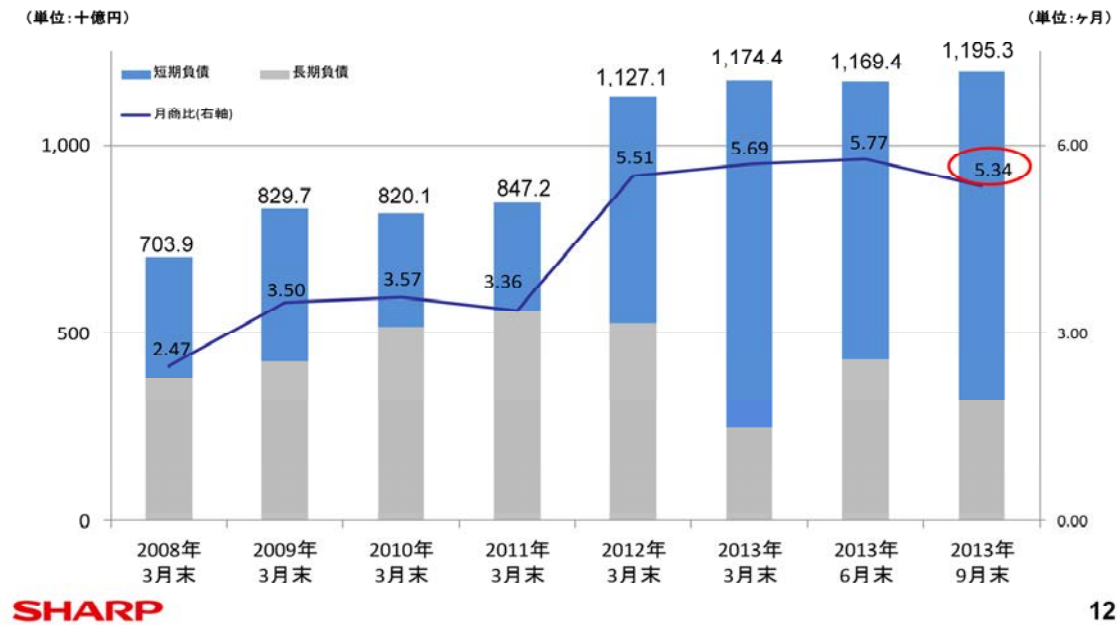
- ・次のスライドは、たな卸資産の推移を示したものです。

9月末のたな卸資産は3,175億円となり、第1四半期末（6月末）から386億円減少し、ほぼ、前年度末（2013年3月末）ベースまで圧縮が図れました。

また、月商比についても、売上の増加に伴い、1.76ヶ月から1.42ヶ月に減少しています。

有利子負債の推移

・2013年9月末の有利子負債は、6月末比で258億円増加するも月商比は0.43ヶ月改善



・次のスライドは、有利子負債の推移です。

9月末の有利子負債は1兆1,953億円となり、第1四半期末(2013年6月末)から258億円増加しましたが、月商比は0.43ヶ月改善しています。

引き続き、キャッシュ・フローの改善に努め、削減に取り組んでまいります。

中期経営計画に基づいた施策の推進

【自前主義からの脱却・アライアンスの活用】

- ・ MEMSディスプレイ共同開発契約に伴う クアルコムに対する第2次第三者割当増資の実施
(第2次払込額:59億円 累計108億円)
- ・ 中国電子情報産業集团有限公司(CEC)との液晶事業協業契約締結
 - ー 高精細TFT液晶パネル・モジュール技術の供与／第8.5世代液晶パネル・モジュール工場の立ち上げ及び合併 ー

【全社コスト構造改革による固定費の削減】

- ・ 固定費の削減 709億円(対2012年度上期)
 - ー 人件費、減価償却費の削減等により、予定通りの進捗

【財務体質の改善】

- ・ シンジケートローン3,600億円更改による安定資金確保と、追加融資枠1,500億円設定によるCB2,000億円の償還(2013/9末)
- ・ 公募増資(1,090億円)、デンソー、マキタ、LIXILに対する第三者割当増資(174億円)の実施

※オーバーアロットメントによる売出しに伴う野村證券に対する第三者割当増資(上限112億円)は11/12払込予定

SHARP

13

- ・ 次のスライドは、中期経営計画に基づいた施策の推進状況を示したものです。
- ・ 「自前主義からの脱却・アライアンスの活用」では、MEMSディスプレイ共同開発契約に基づく、クアルコムへの第2次第三者割当増資を実施した他、「8.5世代の液晶工場立ち上げを骨子とする業務提携契約」を中国CEC社と締結しました。
- ・ 「全社コスト構造改革による固定費の削減」では、2012年度上期対比で、709億円と予定通りの進捗となっています。
- ・ 「財務体質の改善」では、「既存シンジケートローン3,600億円の契約更改」による安定資金の確保に努めるとともに、「追加融資枠1,500億円の設定契約」を締結し、先般(9月末)、転換社債(2,000億円)の償還が完了しました。
- ・ また、中期経営計画の着実な遂行に向けた戦略的投資資金の確保と財務基盤の強化を目的とし、公募増資(1,090億円)を実施した他、(株)デンソー、(株)マキタ、(株)LIXILに対する第三者割当増資(174億円)を行いました。

Ⅱ 部門別情報

14

・続いて、部門別及び主要商品の状況について ご説明します。

なお、各部門並びに各主要商品の年間予想については、
前回(2013年8月1日)公表値を据え置いております。

下期における業績の進捗状況と市場動向等を見極め、修正発表が
必要となった段階で速やかに公表いたします。

デジタル情報家電

(単位:十億円、百万台)

		2012年度		2013年度						2013年度	
		上期	1Q			2Q		上期		年間	
			実績	実績	前同比	実績	前同比	実績	前同比	前回(8/1)予想	前年比
売上高		338.5	158.9	+18.5%	175.6	-14.1%	334.6	-1.2%	730.0	-0.4%	
液晶カラーテレビ	金額	185.7	80.3	+3.4%	113.7	+5.3%	194.0	+4.5%	400.0	+3.0%	
	台数	3.89	1.56	-6.2%	2.12	-4.6%	3.69	-5.3%	8.00	-0.4%	
携帯電話	金額	98.3	50.2	+71.8%	37.2	-46.0%	87.5	-11.0%	210.0	-8.5%	
	台数	2.73	1.31	+69.1%	1.11	-43.0%	2.42	-11.1%	5.50	-10.0%	
営業利益 (利益率)		-21.1 (-6.3%)	-1.3 (-0.9%)	-	2.2 (1.3%)	-	0.8 (0.3%)	-	5.0 (0.7%)	-	

※部門別売上高は、セグメント(プロダクトビジネス・デバイスビジネス)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

【上期の実績について】

(液晶カラーテレビ) 国内、中国、新興国における販売は伸長するも、欧州、米州が低迷
(携帯電話) 国内外携帯電話メーカーとの競争が激化
等により、「デジタル情報家電」部門の売上高は、前年同期を割り込む

【今後の取り組み】

(液晶カラーテレビ) 60型以上(70/80/90型)モデルのシフトとラインアップ強化、新興国等、
重点地域へのローカルフィット商品の投入
(携帯電話) 高精細、低消費電力「IGZO液晶」搭載モデルの拡充等による、国内シェアの奪回

SHARP

15

- ・まず、「デジタル情報家電」部門ですが、
当上期の売上高は前年同期をわずかに割り込み3,346億円となりました。
営業利益については、前年度上期のマイナス211億円から8億円の黒字となり、220億円の改善となりました。
- ・同部門の主要商品である「液晶テレビ」の売上高は、前年同期比4.5%増の1,940億円となり、販売台数は、5.3%減の369万台となりました。
米国、欧州における販売が低迷しましたが、国内、中国、新興国等が伸長しました。引き続き、60型以上モデルのラインアップ拡充や、新興国等、重点地域における販売強化、4Kモデルなど新商品の開発推進に取り組み、売上拡大を図ってまいります。
- ・また、「携帯電話」については、売上高は前年同期比11.0%減の875億円、販売台数は11.1%減の242万台となりました。
海外携帯電話メーカーとの競争激化等、今後も厳しい状況が続くことが想定されます。当社は、「高精細」「低消費電力」を特長とした「IGZO液晶」搭載モデルのラインアップ拡充等、国内シェア奪回に向けた取り組みを一層強化してまいります。

健康・環境

	2012年度	2013年度						(単位:十億円)	
	上期	2013年度				上期		2013年度	
		1Q		2Q				年間	
	実績	実績	前同比	実績	前同比	実績	前同比	前回(8/1)予想	前年比
売上高	154.9	82.3	+5.2%	77.5	+1.1%	159.8	+3.2%	320.0	+3.3%
営業利益 (利益率)	17.3 (11.2%)	6.4 (7.8%)	-22.1%	3.2 (4.2%)	-64.3%	9.6 (6.0%)	-44.2%	20.0 (6.3%)	-37.9%

※部門別売上高は、セグメント(プロダクトビジネス・デバイスビジネス)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

【上期の実績について】

- ・エアコン、冷蔵庫の販売が堅調に推移
- ・海外生産品の輸入が多い国内事業の採算性が円安により悪化

【今後の取り組み】

- ・ASEAN地域を最重点地域とした海外事業の拡大、インドネシア工場の生産能力増強
- ・地産地消の推進強化により、為替影響の極小化を図る

SHARP

16

・「健康・環境」部門については、

売上高は、前年同期比3.2%増の1,598億円となりましたが、海外生産品の輸入が多い国内事業の採算性が円安により悪化した為、営業利益については44.2%減の96億円となりました。

急激な交易条件の変化に伴い、損益面では厳しい状況が続きますが、地産地消の取り組み強化により為替インパクトを極小化するとともに、ASEANを最重点地域とした海外事業の拡大に取り組んでまいります。

太陽電池

(単位:十億円)

	2012年度	2013年度						2013年度	
	上期	1Q		2Q		上期		年間	
		実績	前同比	実績	前同比	実績	前同比	前回(8/1)予想	前年比
売上高	93.0	84.3	+101.1%	83.9	+64.1%	168.2	+80.8%	310.0	+19.3%
販売量 (MW)	542	343	+35.7%	560	+93.6%	904	+66.6%	1,800	+36.4%
営業利益 (利益率)	-12.3 (-13.2%)	6.8 (8.1%)	-	3.0 (3.7%)	-	9.8 (5.9%)	-	13.0 (4.2%)	-

※部門別売上高は、セグメント(プロダクトビジネス・デバイスビジネス)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

【上期の実績について】

- ・国内市場において、住宅用やメガソーラー向け等の産業用が伸長

【今後の取り組み】

- ・底堅い国内需要での販売拡大による収益の確保
 - 住宅用：様々な屋根形状に対応した商品ラインアップの拡充、営業・販売活動の強化
HEMS、蓄電池を含めたシステム販売の拡大
 - 産業用：商品供給ならびに施工体制の強化による着実な完工、売上拡大
設計・営業の強化によるメガソーラー案件の獲得
 - 海外：エネルギーソリューション事業、ディベロッパー事業の拡大

SHARP

17

- ・次に「太陽電池」部門ですが、国内市場における住宅用や、メガソーラー等の産業用の伸長から、売上高は、前年同期比8割増の1,682億円となりました。営業利益については、売上拡大や固定費削減効果等もあり、マイナス123億円から98億円の黒字となり、222億円の改善となりました。

今後とも、エネルギーソリューションビジネスの展開や、国内事業の一層の強化により、収益力の改善に取り組んでまいります。

ビジネスソリューション

	2012年度	2013年度						(単位:十億円)	
	上期	2013年度				上期		2013年度	
	実績	1Q	2Q	1Q	2Q	実績	前年比	年間	前年比
		実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	前回(8/1)予想	前年比
売上高	138.9	77.6	+20.0%	80.7	+8.8%	158.4	+14.0%	310.0	+4.4%
営業利益 (利益率)	6.9 (5.0%)	7.5 (9.8%)	+223.8%	8.3 (10.3%)	+80.2%	15.9 (10.1%)	+128.5%	22.0 (7.1%)	-9.6%

※部門別売上高は、セグメント(プロダクトビジネス・デバイスビジネス)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

【上期の実績について】

・国内外でカラー複合機が好調に推移し、海外ではインフォメーションディスプレイも伸長

【今後の取り組み】

・先進国での高速機拡大、新興国におけるカラー機シフト
・複合機、ディスプレイの連携提案による新規顧客開拓、パッケージ商材でのビジネスソリューション提案強化

SHARP

18

- ・また、「ビジネスソリューション」部門については、
売上高は、前年同期比14.0%増の1,584億円となり、
営業利益は、約2.3倍の159億円となりました。
引き続き、当社の強みである特長ディスプレイとデジタル複合機を
軸としたビジネスソリューション事業を強化し、事業拡大に取り組んで
まいります。

液晶

	2012年度		2013年度						(単位:十億円)		
	上期	2013年度								2013年度	
						上期				年間	
		1Q		2Q							
	実績	実績	前同比	実績	前同比	実績	前同比	前回(8/1) 予想	前年比		
売上高	368.0	193.8	+32.8%	284.7	+28.2%	478.5	+30.0%	970.0	+14.5%		
営業利益 (利益率)	-115.5 (-31.4%)	-9.5 (-4.9%)	-	18.1 (6.4%)	-	8.6 (1.8%)	-	30.0 (3.1%)	-		

※部門別売上高は、セグメント(プロダクトビジネス・デバイスビジネス)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

【上期の実績について】

- ・前年、2012年度上期は、大型液晶工場の稼働調整、大手ユーザーからの中小型液晶の受注ズレ込みにより多額の赤字を計上
- ・2013年度上期は、大型液晶の外販が好調に推移し、スマートフォン、タブレット向け需要増により、中小型液晶の販売も増加
- ・戦略的アライアンスの効果もあり、亀山第2工場の稼働率は計画通りに進捗

【今後の取り組み】

- ・新規ユーザーへのデザインインの着実な推進、取引拡大による売上、収益の安定化
- ・中小型液晶は、IGZO等、高精細・低消費電力パネルへシフト
- ・TV用液晶は、需給動向を注視しながら生産・販売・在庫の効率化・適正化を推進

SHARP

19

・続いて「液晶」部門ですが、

前年度上期は、大型液晶において工場の稼働調整による在庫の適正化を図ったほか、中小型液晶でも大手ユーザーからの受注のズレ込みがあり、大幅な赤字となりました。

- ・当上期は、大型液晶が堅調に推移したほか、スマートフォン向け等、中小型液晶の販売も伸長した結果、売上高は、前年同期比30.0%増の4,785億円、営業利益はマイナス1,155億円から86億円の黒字となり、1,242億円の改善となりました。

今後ともマーケット動向や、ユーザー別需要状況に注視するとともに、新規ユーザーへのデザインインの着実な推進等により、売上拡大と収益変動性の低減に取り組んでまいります。

電子デバイス

(単位:十億円)

	2012年度	2013年度						2013年度	
	上期	1Q		2Q		上期		年間	
	実績	実績	前同比	実績	前同比	実績	前同比	前回(8/1)予想	前年比
売上高	126.4	61.2	+29.0%	86.5	+9.7%	147.8	+17.0%	320.0	+18.2%
営業利益 (利益率)	-23.7 (-18.8%)	0.1 (0.2%)	-	5.1 (5.9%)	-	5.2 (3.5%)	-	12.0 (3.8%)	-

※部門別売上高は、セグメント(プロダクトビジネス・デバイスビジネス)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

【上期の実績について】

- ・モバイル機器向けカメラモジュールの販売が好調に推移

【今後の取り組み】

- ・モバイル機器向けカメラモジュールの顧客層拡大・販売拡大
- ・監視(セキュリティ)・車載・医療分野へのセンシングデバイスの販売強化
- ・光センサ、タッチパネル、パワーデバイス等システムデバイスの販売強化
- ・LED等ライティングデバイスの販売強化

SHARP

20

・「電子デバイス」部門については、

モバイル機器向けカメラモジュールを中心に堅調に推移し、

売上高は、前年同期比17.0%増の1,478億円となりました。

また、営業利益はマイナス237億円から52億円の黒字となり、290億円の改善となりました。

今後とも、スマートフォンやタブレット向け高性能カメラモジュールや、

センサ、タッチパネル等、特長デバイスの販売を強化してまいります。

Ⅲ 2013年度 連結業績予想

2013年度 年間連結業績予想

- ・2013年度年間での当期純利益黒字化をめざす
- ・年間予想については、前回予想を据え置く
- ・今後の進捗状況と市場動向を見極め、修正が必要となった段階で速やかに公表を行う

(単位:十億円)

	2013年度						2013年度	
	1Q実績	前同比	2Q実績	前同比	上期実績	前同比	前回(8/1)年間予想	前年比
売上高	607.9	+32.6%	734.1	+13.7%	1,342.0	+21.5%	2,700.0	+8.9%
国内	258.8	+38.1%	285.5	+6.4%	544.3	+19.4%	1,020.0	+1.3%
海外	349.1	+28.7%	448.5	+18.9%	797.6	+23.0%	1,680.0	+14.2%
営業利益	3.0	-	30.8	-	33.8	-	80.0	-
営業外損益	-15.7	-	-14.7	-	-30.5	-	-40.0	-
経常利益	-12.7	-	16.0	-	3.2	-	40.0	-
特別損益・法人税等調整額 他	-5.1	-	-2.3	-	-7.5	-	-35.0	-
四半期純利益	-17.9	-	13.6	-	-4.3	-	5.0	-

SHARP

22

- ・次に、2013年度の年間予想ですが、
先ほど説明いたしましたとおり、年間の売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の各々の予想数値については、前回(2013年8月1日)公表値を据え置いております。
今後の業績の進捗状況と市場動向等を見極め、修正発表が必要となった段階で、速やかに公表いたします。

補足資料 ～主要商品販売高等～

23

- ・尚、補足資料として「主要商品販売高」の実績等を取りまとめておりますので、ご参照下さい。

最後に

- ・本日ご説明しました通り、当上期は、期初計画を上回る実績を確保することができましたが、依然として、**厳しい収益環境、財務状況**にあることに変わりはありません。

手を緩めることなく構造改革の取り組みを加速させ、
「**2013年度 当期純利益の黒字化**」に邁進してまいります。

ご清聴ありがとうございました。

主要商品販売高

(単位:十億円)

	2012年度		2013年度		2013年度	
	上期	年間	上期		年間	
	実績	実績	実績	前同比	前回(8/1)予想	前年比
液晶カラーテレビ	185.7	388.4	194.0	+4.5%	400.0	+3.0%
販売台数(百万台)	3.89	8.03	3.69	-5.3%	8.00	-0.4%
携帯電話	98.3	229.6	87.5	-11.0%	210.0	-8.5%
販売台数(百万台)	2.73	6.11	2.42	-11.1%	5.50	-10.0%
冷蔵庫	45.1	87.9	47.5	+5.3%	96.0	+9.1%
エアコン	35.8	59.6	42.5	+18.9%	62.0	+3.9%
太陽電池	93.0	259.9	168.2	+80.8%	310.0	+19.3%
販売量(MW)	542	1,319	904	+66.6%	1,800	+36.4%
複写機・複合機	56.3	128.4	66.2	+17.6%	140.0	+9.0%
CCD・CMOSイメージャ	66.7	153.5	84.5	+26.7%	190.0	+23.8%

地域別 海外売上高

上段:売上高 (十億円)
下段:構成比 (%)

		2012年度		2013年度		2013年度	
		上期	年間	上期		年間	
		実績	実績	実績	前同比	前回(8/1)予想	前年比
	米州	146.9	355.2	204.2	+39.0%	360.0	+1.3%
		22.6%	24.1%	25.6%		21.4%	
	欧州	91.9	174.3	77.8	-15.3%	170.0	-2.5%
		14.2%	11.9%	9.7%		10.1%	
	中国	278.7	667.9	382.5	+37.2%	820.0	+22.8%
		43.0%	45.4%	48.0%		48.8%	
	アジア他	130.8	273.7	133.0	+1.7%	330.0	+20.6%
		20.2%	18.6%	16.7%		19.7%	
	合計	648.4	1,471.3	797.6	+23.0%	1,680.0	+14.2%
		100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	

その他 補足資料

(単位:十億円)

	2012年度		2013年度		2013年度	
	上期	年間	上期		年間	
	実績	実績	実績	前同比	前回(8/1)予想	前年比
設備投資	55.0	82.4	21.5	-60.9%	80.0	-3.0%
〈参考〉液晶※1	36.9	46.0	6.8	-81.6%	27.0	-41.4%
減価償却費	92.6	173.3	58.6	-36.6%	130.0	-25.0%
研究開発費	74.3	137.9	65.4	-12.0%	160.0	+16.0%

為替レート	上期実績	年間実績	上期実績	前同増減	前回(8/1)予想	前年増減
米ドル	78.42円	82.11円	97.86円	+19.44円	95.00円	+12.89円
ユーロ	99.14円	105.65円	128.51円	+29.37円	125.00円	+19.35円

	2012年 3月末	2013年 3月末	2013年 9月末
従業員数※2	56,756人	50,647人	51,080人
国内	29,387人	24,758人	24,433人
海外	27,369人	25,889人	26,647人

※1 シャープ株式会社 (2012年度1Qまでは、シャープ株式会社 及び シャープディスプレイプロダクト株式会社)

※2 シャープ株式会社 及び 連結子会社

SHARP